



土間ロビー。集まってレクチャーを聞く場所、落ち着いたラウンジ、児童室などたくさんの活動が視覚的に連なり、世代を超えた交流が生まれる。

(b) 誰もが気軽に立ち寄り学習ができ、子育て世代を支援出来るまちづくりのための拠点施設整備

連続する大小の土間がみんなの広場となる

様々な出来事や情報と出会う土間ロビー

- 掲示や図書スペース、飲食可能なラウンジなど日常的に様々な情報と出会う土間ロビーは、誰もが気軽に立ち寄り学習が出来、多世代の集うおらかな空間とします。



託児・授乳コーナー、児童室に隣接する父母サロン

- 託児・児童コーナーに隣接する土間ホールは、子育て世代が子どもを見守りながら互いに情報交換出来る父母サロンとします。
- 雨の日には子どもたちの遊び場になると同時に、蕎麦畑ホールでのイベント時にはホワイエ空間となります。



(c) 災害時拠点避難場所としての施設整備

日常的に立ち寄る、親しみやすい避難場所

災害時に情報を収集する場としての土間ロビー

- エントランスに直結する土間ロビーは、掲示板を利用し災害時の情報収集や待ち合わせの場として機能します。
- 広い土間空間は、災害支援物資の受け入れや救急対応等の緊急の用途にフレキシブルに対応可能です。

多目的広場にはかまどベンチを設置

- 大きな屋外空間である多目的広場の脇にかまどベンチを設置し、災害時に炊き出しを行います。テントを張ってキャンプも可能です。



公民館全体が大きな家になる

- 災害時には土間がみんなのリビングに、貸室やホールが一時宿泊場所となり、建物全体が大きな家の様に機能します。
- どの部屋も庭の緑や光を感じられ、長期滞在となってもストレスを感じません。

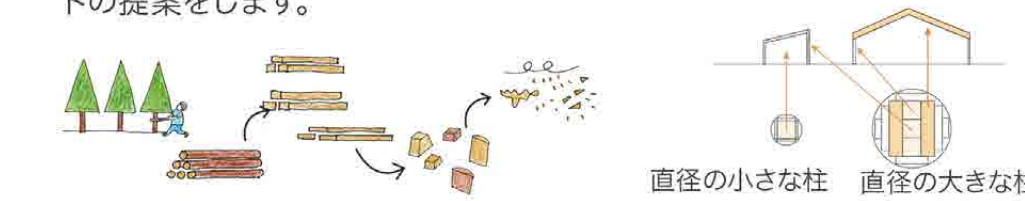
南側屋根の一部に太陽光パネルを設け、災害時も電力供給

(d) 町内の森林資源の活用と環境に配慮した施設整備

内外で多賀らしい木の空間と緑を味わう

歩留りのよい製材により木材を有効活用。廃材も資源に。

- 使用する木材は製材をベースとし、町内で地産地消の仕組みをつくります。
- 大径の木材の特徴を生かし、大断面と小断面を組み合わせ歩留りのよい木取りとします。
- 廃材部分の有効活用として、ペレットストーブの導入やオリジナルプロダクトの提案をします。



ハイサイドライトを使って効果的な採光と通風を。

- 屋根と壁の間のハイサイドライト部分を開閉することで、施設のどこにいても外を感じられる明るく風の通り抜ける空間をつくります。

様々な大きさの庭や広場を多賀らしい植物で彩る。

- 和室に面する坪庭や、蕎麦畑テラス等、大きさの異なる屋外空間を四季を感じる多賀町の植物で彩ります。

e) 経済性や効率性、維持管理の容易性等に配慮した施設整備

シンプルで経済的な構成で多様な空間をつくる

フレキシブルな平面計画

- 伝統的な日本家屋のように、可動式建具を追加・除去することで長期にわたってフレキシブルに平面を変更することが出来ます。

事務室を中心に奥まで見通せる空間

- エントランス脇に事務室を設け、貸し室以外の共用空間を見通せる管理しやすい空間構成とします。

自然通風・採光を利用し、ライフサイクルコストを抑える

- 空調システムは豊富な地下水を積極的に利用します。
- 熱源・冷媒の種類を一つとすることで屋外機の種類を最小化し、メンテナンスに配慮します。

メンテナンスコストを抑える仕上げ

- 屋根には、一般的な保証年数の2倍（20年間）の屋根葺材を使用します。
- ガラス面には光触媒を塗布し、清掃コストを削減します。

経済性に配慮したスパン割り

- 基本的な柱のスパンを5.4m（900m mx 6）とし、製材ベースで建設可能で、パネル割りも容易な経済的な架構とします。